

放課後子ども総合プラン運営委員会 会議概要

1	審議会名	令和6年度第2回放課後子ども総合プラン運営委員会
2	日 時	令和7年3月11日 午後7時00分から8時00分まで
3	会 場	安曇野市役所 4階大会議室
4	出席者	清水会長、大倉委員、唐沢委員、小林委員、井上委員、内田委員、松尾委員、赤羽委員、青木委員、保高委員、平野委員、秦泉寺委員、竹内委員、平林委員、太田委員、上條委員、
5	市側出席者	洞教育部長、山越子ども家庭支援課長、古畑課長補佐、本島主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和7年3月15日

協 議 事 項 等

◇会議の概要

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 事
 - (1) 令和6年度児童クラブについて
 - (2) 令和6年度放課後子ども教室（わいわいランド）について
 - (3) その他
- 4 その他
- 5 閉 会

◇協議事項概要

- (1) 令和6年度児童クラブについて

<委員>

豊科南小と三郷小の児童クラブ室開設の見通しはどうか。

<事務局>

今後、小学校長寿命化の工事の予定があるので、これに合わせて受け入れ体制を整えていきたいと考えているが、未だ未確定な部分がある。

<委員>

名古屋市ではトワイライトスクールといって保護者の就労等に関係なく利用できるものと安曇野市の児童クラブのような学童という形で2パターンで子どもたちの居場所をつくっている。そのような多様な主体で構成して、子どもたちの放課後の安全な居場所づくりができるとうよい。

<事務局>

受入可否について、日々受入側と連絡を取り合って調整している。安全第一なので今後も相談してやっていきたい。

- (2) 放課後子ども教室（わいわいランド）について

<委員>

わいわいランドのスタッフ数の確保については、スタッフ同士の繋がりでも声掛けしてもらおう。もう一つは市で回覧板やチラシなどを配布してスタッフ増加に努めている。また、別組織の会議に出席した際などにわいわいランドの説明をし、協力を仰いでいる。

<会長>

受入拡大したいが子どもの安全を担保するためにできないことはできないと言い、保護者にも理解してもらった方がよい。

<委員>

わいわいランドに関わる中で、不登校の子たちが、学校は休んでしまうが、わいわいランドには参加したいといった声があり、とてもよいと感じている。わいわいランドに参加することで学校の友

達と楽しく過ごし、少しずつ学校に行けるようになるという良い機会になればいいなと考えている。課題としては、子どもの人数も多いため、物が壊れる頻度が高い。できるだけ直せるものは直して使うようにしているが、直すことができないものについては新しいものを買って補充していただくようお願いしたい。

<会長>

わいわいランドの実施回数について多いところと少ないところで 10 回ほど差があるがその理由は。

<事務局>

豊科地域が回数が少ない。そして時間についてもほかの地域に比べて短くなっている。これは年度初めに開催日の予定を立てる際に、学校の行事などと調整している。学年ごとの行事日についても参加できる学年が限定される場合には休みにしていることから、実施回数に差が出ている。

<委員>

回数については学校の予定との調整なので可能な限り実施していただくということしか仕方ないかと思うが、時間が短いときで 30 分しかないのももう少し、45 分とか 1 時間にしてもらえるといいかなと。学年が上がると 6 時間授業になって参加できなくなってしまうので、他の学校でやっているように低学年高学年で時間を分けるなどしていくと参加したい子たちも喜ぶかと思います。

<委員>

お休みの連絡についてたまに忘れてしまう保護者の方がいる。学校の連絡の中にわいわいがあるないという連絡が徹底されると、連絡忘れも減るんじゃないかと思う。

<委員>

スタッフの集め方について、ターゲットを子どもの祖父母に絞ったらどうかという意見があった。実際に来年一年生になる児童のおじいちゃんがスタッフとして入ってくれたケースが最近あった。

<委員>

児童クラブ・わいわいランドいずれも放課後の子どもたちの居場所ということを考えてとてもありがたい。学校からも保護者からも感謝の声をいただいているのでぜひ継続して進めていただきたい。現在はわいわいランドの対象学年が限定されている学校も、対象でない学年の子どもや保護者から参加を希望する声があるので、そういうことも叶うことができればありがたい。活動時間を増やすことについては、学校のカリキュラムや日課表による部分があるので難しい面もある。

<委員>

わいわいランドのスタッフからは、「とにかく子供がかわいい」や「スタッフをやりながら子供やスタッフ同士も交流させてもらっている」「子どもたちの笑顔を見ているだけで元気になる」といった嬉しい言葉が聞こえてくる。単純に子どもたちが遊ぶだけの空間ではないのかなと感じている。縦の繋がりが希薄になっている中で、異年齢間の繋がりもできる。子どもと子ども、子どもと大人、大人と大人そして地域と繋がる。そんな役割を担っていただいていると感じている。限られた時間ではあるが、何とか継続し持続可能な形をこれからも考えていきたい。

<委員>

わいわいランドは子どもたちもとても楽しみにしていて、わいわいランドの日は休まないというか必ず行くといった状態でしたので、親としても大変ありがたい。ただ子どもの人数も多く、大変といった声も聞いているので、育成会でも何か協力できることがあれば、協力していきたい。スタッフの確保や場所の問題など、今後も新たな課題がでてくると思うができる限り長く継続していただきたいと思う。

<委員>

豊科中央児童館は子どもたちが自由に遊びに来ていいということで豊科北小、南小両校の子どもたちが来て交流していて大変いいことだと思っている。課題としてはもっとたくさん子どもたちに遊びに来てほしいので、多くの子どもたち、ご家庭に児童館を知っていただくのが大事と思っている。